



市民ネットワーク 千葉市議会2017年第1回定例会(2月17日~3月15日)

松井かよ子の市議会報告

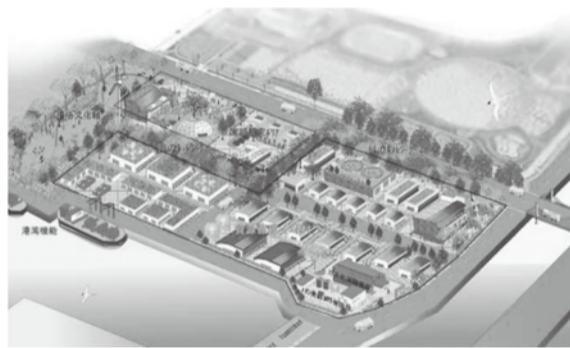
一般質問

「エコロジープーク」に 石炭火力発電所？

中央区蘇我に石炭火力発電所の新設計画があります。2024年運転開始、出力は約107万kwで原発1基分に相当する大規模なものです。

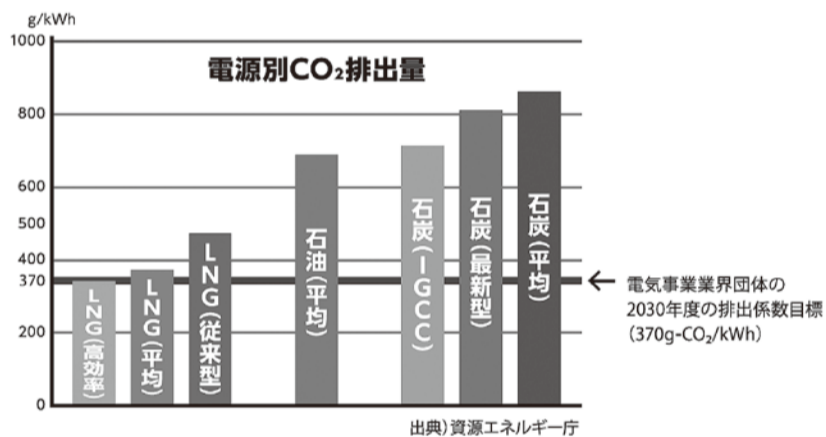
石炭発電は高性能の最新型であってもCO2(温室効果ガス)を大量に排出する方式で、環境負荷が大きいとされています(下グラフ参照)。また千葉市の大気汚染物質について、現時点でも光化学オキシダントは環境基準を達成できておらず、石炭火力発電所が稼動すれば、美浜区にも影響が及びます。

今回の計画地は「蘇我エコロジープーク」構想のエリアです。「環境にやさしい」はずのエコロジープークに「環境にやさしくない」石炭火力発電所が来る可能性があることを、市民説明会などで広く知らせるよう要望しました。



蘇我エコロジープークの完成イメージ図(鳥瞰図) 千葉市ホームページより

NPO法人 気候ネットワーク資料より



※1 石炭発電の使用電力量あたりのCO₂排出量は、最新型でも約800g-CO₂/kWh。一方、天然ガス火力発電所は、最新コンバインドサイクルで約350g-CO₂/kWh。
 ※2 石炭ガス化複合発電(IGCC)の使用電力量あたりのCO₂排出量は、約700g-CO₂/kWh程度。

千葉市自転車を活用した まちづくり条例案に賛成

7月から施行です。身近な乗り物である自転車をまちづくりに活かすことができるよう、千葉市・自転車利用者・歩行者・自動車等運転者・小売業者など、それぞれの責務と役割、相互の連携が明記されました。市民ネットワークでも2010年に自転車条例案を提出したものの、継続審査の後、改選により廃案となった経緯があり、ようやく実現したとの思いがあります。

市ではこれまでも、

- ちばチャリ・すいすいプラン

(自転車走行環境に関する取り組み)

- 千葉市自転車を活用したまちづくり基本方針
- 市民シンクタンク(千葉市まちづくり未来研究所)による政策提言に取り組んできましたが、今回の条例では3つの基本的な事項を定めました。

- 1 利用環境の整備(自転車レーンや駐輪場の設置など)
- 2 交通安全の確保(ルールやマナーを守るための安全教育や保険加入など)
- 3 活用と利用促進(里山サイクリングやスポーツなど)

特に、交通安全の確保では、国の法律よりも一歩進んで、「全世代を対象に乗車用ヘルメットを着用するよう努める」との規定を設けました。

ただし、努める=罰則はないのです。条例について、市民や関連団体、周辺自治体へもていねいに説明し、理解を広げることを要望しました。



Chibaの文字でできた
ちばチャリのマーク
(千葉市建設局ホームページより)



自転車専用レーン



車道混在型レーン

ふるさと納税

千葉市の「ふるさと納税」の返礼品は、障がい者施設の手づくり品など市政に関するもので、高級な肉や特産品はありません。本来の趣旨である「千葉市を応援したい気持ちを活かし」取り組みとして評価します。

寄附金は市の収入全体の0.017%とわずかです。さらなる広報の充実を求めました。

「ふるさと納税」のパンフレット



市民ネットワーク 市議会議員
松井かよ子 渡辺忍 岩崎明子



ブログ

「松井かよ子の
あれこれみはま」



《雑感》ヘルメット

米国・ニューヨーク州では、13歳以下の子どもが自転車に乗る際、ヘルメット着用が義務づけられています。頭部の怪我を防ぎ、安全を守るのに、ヘルメットは必需品と考えられているからです。子どもがヘルメットを着用していない場合、保護者に約5000円の罰金が科されます。そのため米国在住時(1995~2000年)、我が家では子ども達の自転車を買うたびにヘルメットも一緒に購入していました。事実、自転車売り場では、子ども向けのカラフルなヘルメットがたくさん売られていました。

今回の千葉市の条例について、「髪が乱れる」「ヘルメットを持ち運ぶのは面倒」などの声が聞こえてきます。しかし安全確保の観点から、サイクルスポーツ向けのヘルメットに加え、タウン向け、ビジネス向けのヘルメットが市内で開発され、それが国に先駆けて広く普及していくことで、この条例の趣旨を活かすことができると考えます。

